

第十二 六地藏第四番之像 兩足之痛を治給事

下谷池の端心行寺地藏尊に。宝永二年の夏のころ。京橋邊の住人・田村氏の男年のころは。五十有餘になるに。兩足痛。種々に醫方藥力盡し。療治數年致といへども。本復なき所に。病人ふとおもひつけて。此尊像に立願なしければ。四五日過ぎて。どこともなく。心よく足の。のりかゞミも。心持よくおもひければ。毎日地藏の御名を唱て。三十日ほどの内に。元のごとく。本復して。立願成就とて。十二燈をそなへ奉けるとなり。又宝永三年秋の。はじめつゝ17才がた。年のころ。井四五なる女中。乳房をはらして。痛故に。いろく養生。其かづを盡けれど。治難しかるに地藏に。宿願をかけ。一心に地藏の。御名を唱て。祈誓申せば。夢中に。僧一人來。錫杖をならし。家の内に。入たまふと見て。夢寤とひとしく其夜の内より。乳房の痛よくなりて。地藏菩薩に。參詣いたすとなり

第十三 六地藏五番之像 利生之事

東叡山大佛堂の内右脇にあり。此尊像は。御門主に奉りて。納おくものなり。大佛堂の内。左脇の弥勒菩薩も。右の施主なり。此除蓋地藏尊。錫杖と。宝珠持たまふなり。生苦の者には。平産のらくをあたへ。老17苦には。不老の藥をあたへ。病苦には。無病の藥をあたへ。死苦には。定業を轉じ。延命をあたへ。臨終正念にして。淨土に生るたのしみを。あたへたまふとなり。人道の教主。人間の八苦を助。日では。雨を降して。國土草木の。生長をさせ。五穀を生調せり。或は女人の。乳の出ざるを。乳を出子ども。長盛を守たまふなり。兄弟姉妹もふとなどの縁うすく。中悪あるひは。生靈死靈咒詛の心の病を。對治するには。信心すべし。延命經に靈神咒詛神のたゞり。または因果の業深して。病

者の人は信心すべし。男女の愛敬を守。子なき女人には。子をあたへ平座をまもりたまふなり。人道のうたとて。玉葉集に「18才

伊勢のうみ。あまのうきなは。うけがたき

此身をまたは。しづめずもかな

山家集に
ありがたき。人になりける。かひありて

さとりもとむる。こゝろあらなん

西行法師

第十四 六地藏六番之像 利生之事

金龍山淺草寺。觀音の寺中。右脇正智院には。日光地藏と申て。天道の能化たり。念珠を持たまふ。天人の五衰の。闇を照に。小の五衰あり大の五衰あり。此五衰現ずる時は。必定して死す。此時地藏尊を信すれば。五衰の雲晴て。日光地藏の慈悲を蒙て。長壽天に生ずるとなり。さて日光地藏は。六地藏となり。六地藏は。六觀音となり。18ウ六地藏六觀音の本地は。西方極樂の。阿弥陀如来となり。諸佛菩薩は大慈大悲を。體とするゆへに。くだりくだるを貴しとす。阿弥陀の妙覺の尊體は。下化衆生のために。ミだを變じて。觀音となり。六道の衆生を。濟度したまふとなり。鈍根の人心せば。利根智慧の心眼を開べし。業深く貧僧俗の輩は。富貴を多せんとなり。また貴人高官の人は。官位の望。奉公人などは。出世庄嚴の福德をうるとなり。或は父母の邪見には。子ども立願せば。二親の邪心を轉て。慈悲の正路を得べし地藏は母の邪見を助て。地藏となり給ふゆへなり。子ども枉惑にして。親に不孝なるときは。親立願すれば。父子ともに。善心を生じ。男女の中悪敷は。19才和合を守給ふなり。此六地藏を信心する人の家をは。大歳神。山神木神。江海水神。饑餓神。一切諸の佛神の守護有なり

第十五 六地藏各互六道化給事

夫上来に書記す処の六地藏は何れの地藏にても。一昧の利益に。六道の衆生を。救済の利生有べきことなり。さりながら。六地藏は元一昧なりといへども。衆生の機見の罪によつて。六道化度のために。分身して六地藏と示現なり。誠に此利生利益の。例をいはゞ。淨土の觀經にも。一切五道内心中□あり。請觀音經に。一觀音を請じ。讚ていふに。衆生若名を聞け。苦を離解脱を得るとなり。地獄に遊戯の。大慈悲は。罪人の苦にかはり。または畜生の。中に處しては。苦を助。19ウあるひは。修羅にありては。いかりをしづめ給ふことは。五道にゆきて。衆生を濟度あることくに。地藏も六道に分身して。六昧の利生利益は。あるものなり

第十六 六地藏巡數功德之事

六地藏尊は。身を千百億に方便を設けて。廣濟度あり。本願經に地藏菩薩を。一度礼する衆生は。百たび三十三天に生れて。ながく惡道に落ず。たとひ天の福德。つくるといへども。人間界に生れては。國王となり。大利益を失のふ事はなし。此故に六地藏に。三十三度まいるべきことなり。是は觀音の。御心にもかなふなり。觀世音は。その身を三十三身に現じて。衆生を利益あるゆへに。俗言にも。人昧に生。20オては。三十三の暁までハ。人の身は盛長あるといふなり。是をもつて。釈迦佛の地藏本願經を説給ふに。觀世音に汝。神力をもつて。この經を娑婆世界の衆生に。百千万劫永。安樂を受さしめよとなり。觀音は地藏の。威神力を見るに。恒河沙劫にも。説つくしがたし。地藏を見聞瞻禮せば。一念のあいだに。人天は利益を。うるること無量ならんとなり。是ハ地藏觀音の利益なり。また三十六度まいる人は。地の三十六神路の神等をかたとれば其縁に引て。地藏參詣の輩は。邪道邪氣を。速にのぞきて。ミづから菩提を證ずると

なり。三十六地獄の苦を。まぬかれて。一切の惡鬼邪神の。責をうくることなしとなり。さて人間の。20ウ眼耳鼻舌身意は。一心一用にあらざれば。善惡ともに。正意正路に行ことはなし。善惡ともに。邪道のかたへは。目を見廣げ。善道をば。狹見て。耳には。善惡ともに。聞ひろげ。聞せば。最良のあるゆへに。正道になくて。三十六地獄の。業となるを。地藏へ參人をば。正直正路に。なさしめんと利益なり。四十九度參人は。兜率天四十九院の功德あり。弥勒の修行におなじうして。人死て四十九院を。立る徳をうるとなり。百八度まいる人は。百八のぼんなふを。忽に消滅するなり。また六人連立。六地藏巡人は。六地藏と。一昧一形になりて。巡たまふゆへに。釈迦の六度の萬行におなじ六親眷属を。たすくるの。功德を備るものなり。21オまた一人として。六人を勧めて。六地藏巡人は。其同行の頭となりて。六道の能化の徳をうけて。六根の所犯の罪を滅し。一萬八千金迦羅王佛と。唱る徳はあるなり。人間は日夜。十二時に所犯の罪。あることは。人々の身のうへに。知事もなき故は我目を我目にて。見ことなきがごとし。地藏信心の人は。一切經論八萬の。法藏の功德を得となり。無間地獄の罪の苦を滅するとなり。また六人つれだちてめぐる人は。地藏の六道をすくふ。行願にしたしうして。その功德ふかし。また一人として。六人宛を勧めて。地藏まいりを。いたす人ハ百千万億にも。正理正利益を失ことはなし。六度參人は。六根六識六境界の。罪を消滅する。21ウとなり。さて十二度まいる人は十二地藏なり。六地藏信心の人なり。本願經に十種の利益と。十二種并八種。七種の此數は。人の機見におふじて。無量の利益。其かずもわかることなり。まつ地藏ハ毎日。十方國土に身を分身して。一切の家のまはり。巡衆生をまもりたまふなり。一つには。生々世々。其姿いつくしく。生功德あり。二つには。富貴の國。繁昌の所に。生を受となり。三つには。常に